

# エグゼクティブ・サマリー

## 第1章 近郊都市におけるまちづくり

早稲田大学社会科学総合学術院教授 卯月 盛夫

近郊都市とは、都市圏によって異なるが中心の母都市からおよそ時間距離で1時間～1.5時間程度離れた外縁部に位置する諸都市である。大都市の商業業務機能の拡大を受けて、都心に通うサラリーマンの住宅の受け皿として大規模な団地開発や宅地造成が行われてきた。かつての農村風景は大きく変貌したが、今後は比較的若年ファミリー層や比較的学歴が高く、仕事をしてきた女性による新しいライフスタイルをベースにしたまちづくりが期待される。特に、住民参加を前提にした共生の住まいやコミュニティカフェなどの居場所づくり、デザインを重視した公共空間の整備などが重要である。

## 第2章 まちの魅力を引き出す公共空間デザイン

### 第1節 おしゃれなまちのための公共空間デザイン

法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授 福井 恒明

「おしゃれなまち」とは住民自らの審美眼に率直になれる親密感があり、主体的な満足感を満たすことのできる環境である。日常的な生活行動が中心となる近郊都市では、地域の付加価値を高めるキーワードとして「おしゃれ」が有効である。本節ではスポット整備から暮らしの豊かさに展開することでおしゃれが実感できること、その実現のための公共空間デザインの戦略として、効果の高い場所への集中的整備、利用者自身が場所に主体的に関われるようなハードの計画と使い方の同時検討の必要性について述べた。具体的な事例として、南池袋公園（豊島区）、岸公園（松江市）、おたかの森小学校（流山市）などについて紹介した。

## 第2節 水辺の成り立ちと“おしゃれ”の舞台としての水辺空間整備

日本大学理工学部まちづくり工学科教授 岡田 智秀

一般的に景観計画や地域計画において、河川や海岸といった水辺は地域のエッジとみなされ、地域間の“境界”として位置づけられることが多い現状に懸念をもつ。元来、浜辺・川辺・野辺といった“辺(べ)”と呼ばれる空間は、自然界と人間生活が向き合う独特の空間であるために、自然と人が交わる多種多様な特徴的景観を享受することができる。したがって、“辺”の空間整備にあっては、単目的な施設整備に偏重せず、多様な景が創出される工夫を心がけたい。

そこで本節では、自然空間と人間生活空間が交わる「辺(べ)」に着目し、その空間的成り立ちと豊かさについて論じるとともに、なかでも“水辺”に焦点を絞り「辺」の豊かさを享受する水辺空間整備の手立てについて提示する。

## 第3節 元気で美しいまちづくりのために公園・みどりができること

元 国土交通省都市局公園緑地・景観課長 町田 誠

都市公園においては、もともと設置管理許可制度、指定管理者制度等が運用されてきたが、2017年の法改正でPark-PFI制度がさらに追加され、行政の取組み次第で「何でもできる」多くの可能性をもつ公共空間となった。従来は経済成長や人口増加を背景として、面積の確保が重視されてきたが、住民の暮らしの幸福度を指標とした時間(生活)デザインを目指すことによって、社会資本としての効用が、これからさらに高まるだろう。そのためには、産・官・学・地域などの関係分野が連携・融合し、都市公園のプレゼンスを上げていかなければならない。

本節は、2018年8月21日に開催した「第7回住民がつくるおしゃれなまち研究会」での講演の概要をとりまとめたものである。

### 第3章 「共感」を育むシビックプライド

#### 第1節 注目を集める「シビックプライド」の可能性

関東学院大学法学部地域創生学科准教授 牧瀬 稔

本稿は、近年、地方自治体が注目している「シビックプライド」(Civic Pride)を考察の対象とする。シビックプライドの現状を述べ、定義、歴史を言及する。また、自治体が考えているシビックプライドの効果も例示する。最後に、戸田市がシビックプライドを進めていくための提言を示し、本稿を締めくくる。戸田市への提言は、他自治体にも応用が効くと考ええる。シビックプライドは、戸田市が展開しているおしゃれなまちづくりにも貢献する概念である。

また、本節は自治体に取り組むシビックプライドの情報提供も意図している。さらに、これから取り組もうとしている自治体への問題提起という意味もある。

#### 第2節 シビックプライドを醸成するまちと市民の接点

東京理科大学理工学部建築学科教授 伊藤 香織

シビックプライドは、単なるまち自慢や郷土愛ではなく、当事者意識に基づく自負心を意味しており、人とまちの関係の接点づくりが重要である。接点となるものやことを、他者と共に見たり、経験したりできること、また、その経験がまちに現れることが欠かせない。

本節では、シビックプライドを醸成する接点の多様なあり方について、国内外の事例を紹介する。これらの事例における住民参加のかたちはそれぞれ異なり、地域の課題と特徴を踏まえて多様なプロセスがありうる。

本節は、2017年12月22日に開催した「第2回住民がつくるおしゃれなまち研究会」での講演の概要をとりまとめたものである。

### 第3節 まちのブランド価値を高める「クリエイティブ」

事業構想大学院大学学長・教授 田中 里沙

おしゃれなまちづくり、シビックプライドの醸成、まちづくりにおける住民参加を推進するには、地域資源を発掘し、磨き上げていくことが重要である。そのエンジンとなる情報発信やコミュニケーション活動に、マーケティングやクリエイティブの視点を加えていくことを提案する。クリエイティブな体験をした人は、SNS等で情報発信を行う可能性が高い。情報発信者に当事者意識を持ってもらうことを意識した仕組みの設計が必要である。

本節は、2018年6月19日に開催した「第6回住民がつくるおしゃれなまち研究会」での講演の概要をとりまとめたものである。

## 第4章 多様な主体の参画によるエリアマネジメント

### 第1節 多様な主体の連携と協働によるまちづくり

早稲田大学社会科学総合学術院教授 卯月 盛夫

1980年代からはじまった住民参加のまちづくりは、自治体財政の逼迫化などにより、行政、市民、民間、NPO法人などによる連携と共働の時代となってきた。特に、多様な主体が水平に対話と協議をする場としてプラットフォームが、各分野で期待されている。プラットフォームには、日常的に緩やかに情報共有する場としての第1次プラットフォームと、特定の課題を解決するために協議する場としての第2次プラットフォームがある。そのプラットフォーム機能を担う組織は地域によって様々なバリエーションがあるが、その一つとして、エリアマネジメント活動を行う団体が期待されている。

## 第2節 大阪市・広島市における水辺のマネジメント(現地調査報告)

公益財団法人日本都市センター研究員 瀧澤 里佳子

本節では、大阪市・広島市の2つの事例を取り上げ、魅力的な水辺空間をつくるための先進的なマネジメントについて紹介する。多様な主体が協働するプラットフォームがうまく機能している地域では、住民や民間事業者ならではの自由な発想による水辺の利活用や、アクティビティが生まれている。しかし、プラットフォームを構成する主体がどのようなバランスで連携をとるのが望ましいのか、また、どのような水辺空間をめざしていくのかは、都市の規模によっても異なる。それぞれの地域に即したプラットフォームのあり方を見極めることが必要である。

## 第5章 戸田市における実践的な取組み

### 第1節 近郊都市としての戸田市の位置づけと

「おしゃれなまちづくり」の関係

公益財団法人日本都市センター研究員 高野 裕作

本節では、戸田市に関する基礎情報として、郊外都市としての位置づけ、都市化の経緯、まちづくりの取組みについて整理するとともに、本報告書で取り上げられている「戸田漕艇場」、「彩湖・道満グリーンパーク」について概説している。また本稿はこれらの考察を通じて、「シビックプライドの醸成」、「おしゃれなまちづくり」という本研究会で議論されたまちづくりの戦略・各論点の背景について理解を深める助けとなることを意図したものである。

## 第2節 住民がデザインするおしゃれな都市の創造

戸田市こども青少年部参事 梶山 浩

加速化する人口減少を鈍化・回避するための地方創生が叫ばれ、全国各地では都市の魅力を生かした多彩な取り組みが進められている。このような都市間競争の中において、今後も全国屈指の率で人口増加が推計されている埼玉県戸田市が、さらに活力に満ちた都市を目指していくためには、「都市のおしゃれ」が必要不可欠な要件であると考えている。この実現に向けた一つの方策として、近郊都市にとって貴重なヒーリングスポットである水辺空間において住民の主体的な取り組みから生まれる都市のおしゃれについて、全国初の研究テーマとして公益財団法人日本都市センターと共同研究に取り組んだ報告である。

## 第3節 戸田市のおしゃれを具現化する水辺活用術

日本大学理工学部まちづくり工学科教授 岡田 智秀

戸田市のおしゃれを体現する拠点的空間として、本市の代表的スポットである「戸田漕艇場」と「彩湖・道満グリーンパーク」の2地区に着目する。両地区は、“水辺”であることに共通するほか、知名度がそれなりに高い中で、利用者も多様な世代にのぼっていることから、戸田市の良好なイメージ形成の拠点となりうる可能性を有しているが、現状ではそれに関する課題点も見受けられる。

そこで本節では、冒頭で戸田市の今後の進むべきまちづくりビジョンを論考することにより、そのビジョンに即した両地区の水辺整備の考え方として、第2章第2節で述べた“水辺の成り立ちとその空間整備のあり方”をふまえつつ、それぞれの水辺空間の課題点と整備上の留意点を提示する。また、両者の水辺空間を核とした周辺地域への波及的な景観整備方策についても言及し、戸田市の水辺からのまちづくり方策について論じる。

#### 第4節 イベントを通じた水辺公共空間の価値の再発見と 利活用の検討

「実証実験：水辺で遊ぼう♪くらふとカーニバル」の実施に至る経緯と  
調査結果の報告

公益財団法人日本都市センター研究員 高野 裕作

本研究会では、2018年7月15日に戸田公園高台広場において、実証実験として「水辺で遊ぼう♪くらふとカーニバル」というイベントを実施した。このイベントは戸田公園・漕艇場周辺の空間としての価値を再発見し、今後の利活用の方向性を検討することを目的としたものであった。本節ではイベントの実施に至る研究会での議論の経緯、イベント開催に向けた各主体の関わり方、イベント当日に実施した調査の結果について、それぞれ概説し、それを踏まえて今後のまちづくり活動のあり方と、戸田公園・漕艇場周辺の空間の利活用のあり方を考察した。